

明治薬学人の宴会

薬学雑誌 1899 年度 517 頁, 1903 年度 1313 頁

先月紹介した明治 32 年の四博士誕生を祝う宴会は他にも幾つかあった。その中のひとつに 4 月 24 日上野・伊豫紋楼での会がある。これは医科大学薬学科の学生 8 人(1, 2, 3 年生全 9 人のうち 1 人病欠)と海軍特派生, 選科生 12 人の若者 20 人が長井下山丹波田原を招待(!)したもの。夕 4 時半から祝歌 3 首の詠唱, 薬学に関する福引(?)の後, 学生が未来の薬学界(この 8 年後, 明治 40 年を想定)を茶番的に演劇した。登場人物は薬屋の主人, 妻, 娘, 5 人の薬学士。愛娘は頗る美貌秀才なるを以って学士各自より結婚を申し込まれたが, 主人は当惑の余り一策を設け, 第一に博士の名誉を得たる人に嫁すべしと返答した。ここに於いて 5 人は日夜倦まず撓まず研究し, 皆同日に博士の栄号を得た。斯くの如く一時に多数の博士を得たるは薬学界のみ, と一同, 薬学万々歳を唱えて終わったとある。学生だった近藤平三郎, 慶松勝左

衛門の役者ぶりは如何なりしや。さらにその後めいめい隠し芸や羅漢踊り。最後は将来の薬学を背負う若者たちへ長井博士の訓諭的答辞で締め, 散会せしは夜 10 時過ぎなり。

もうひとつ, 明治 36 年 12 月 4 日, 東大薬化学教室の 4 人が去るに当たり若者だけで開かれた送別会の記事がある。場所は根岸・岡野。当時は「投票戯」という遊びが流行っていたようで, 茶菓酒肴を味わいながら先ずこれから始まった。当選者は, (未来の博士になるもの)近藤学士, (子沢山になりそうな人)石津学士, (なかなか隅に置けぬ人)弘世君, (一生貧乏そう)色川君, (野師になりそうな人)社家間君, など。このあと福引で賞品を分け, 次いでドンネル(?)で当選した人は芸を出すことになった。「嗚呼, 分析場裡のまじめなる若殿輩, 何処で如何に此くまでに秘めし」詩歌, 落語, 人情話, 都々逸, 大津絵節, 長唄踊り, など続き続きで, 昼 3 時から夜 9 時まで出席者 23 人は大いに盛り上がる。

そういえば 2, 30 年前は宴会で芸する先輩多く席は沸いた。彼らはそのまた先輩に鍛えられしならん。テレビなき時代は一般人みな芸をした。

小林 力